總持寺祖院

總持寺祖院は、禅の曹洞宗を日本国内に広めた、瑩山禅師（1268–1325）によって 1321 年に開創された。瑩山は總持寺を曹洞宗の修行所の中心とし、ここはすぐに曹洞宗の 2 つの本山のうちの一つとなった。1898 年、總持寺は火事によって完全に倒壊した。總持寺祖院（意味：總持寺の祖となる寺院）は、同じ場所に建てられた僧院。

注目すべき建造物には、法堂または、達磨堂がある。特別な儀式を行うこの法堂は、木造りで、金と郷土の輪島塗、欄間で装飾されている。その欄間には、瑩山の人生と教えを説く姿が複雑な彫刻で描かれている。伝燈院は、瑩山の霊廟で、總持寺祖院のなかで最も崇められている建造物である。瑩山の遺体はここには埋葬されていないが、伝燈院は彼の魂を讃えている。

總持寺祖院の訪問者たちは、曹洞宗の坐禅が体験できる。僧院に宿泊する訪問者は、より長い坐禅体験をすることができ、精進料理を食すことができる。事前に予約が必要。僧侶の一人は、英語とドイツ語を流暢に話す。

總持寺祖院の一部分は、2007 年の地震による損壊を受け、修復中だ。修復工事は 2020 年 12 月に完了する予定。